

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の歩んで来られた人生と現状を大切に、これからもその方らしく生活していただけるよう地域の方々、ご家族とともに支援することを基本とし、運営理念を策定しました。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を実践すべく、カンファレンス・職員会議の場で具体的な問題解決の拠所として運営理念を捉えるよう啓発に努めています。共有の段階には至っていないが、職員には浸透している。</p>	<p>職員個々により理念の理解及び日常の実践にレベル差が生じている。新ユニット増設時の職員採用後に顕著となっており、今後は職員の個人面接時の指導や施設研修の一環とし取り組む等、改善策を検討している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営理念を重要事項説明書の表紙に掲載しており、また、ホールに掲示するなど、ご家族には必ず説明し理解を得られるよう努めている。地域には積極的に広報するなどには行っていないが、見学者・ボランティアの方々にはパンフレットにより紹介し、順々に浸透するよう図っている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>田園地帯に立地しており、近隣とのつきあいは機会としては少ないが、良好な関係が保たれており、緊急時の協力体制は整っている。朝夕は散歩・ジョギングのコースとなっており、馴染みの方々も多い。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>行政単位としての自治会・老人会はホームよりかなり遠方になり、実質的には参加しにくく、近くの各種地域団体には区域外のため特例での加入は困難な状況。可能な範囲で参加、協力をしている。幼稚園・保育園・学校・ボランティア団体との交流は積極的に行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者の方々を対象とした特別な催物や施策は行えていないが、併設する居宅介護支援事業所と連携し、地域の皆さんよりの相談も多く、積極的に情報提供や紹介は行っている。</p>	<p>今後も相談受付・情報提供は積極的に行って行きたい。また、現在、運営推進会議の委員より「介護教室」の継続的な開催を提案されており、実施に向け計画進行中である。</p>
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者評価を2回実施し、改善に活用出来た点も多い。利用者の権利の明示・計画的な職員研修の実施・医療連携体制の強化など、実績を残している。職員の個人面接、施設研修の中でホームの評価結果に関する取組の方針も伝えている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に一度のペースでは実施出来ていない。開催した会議の議題とし「第三者評価」の結果検討を行ったが質疑に終り、意見交換・具体策の討議までには至らなかった。現状は、報告・説明事項が主体となり、モニターとし機能し評価を行う等の活用が不十分である。</p>	<p>定期開催により本会議の積極活用を図りたい。各委員の方々には、運営推進会議によるサービスの質確保に理解を一層深めていただくよう依頼するとともに、委員より提案のある「介護教室」の開催等推進したい。また、サービスの質の評価を主要議題とし、今後の会議を進行させたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>18年度、地域密着型サービス拠点等施設整備計画に於けるグループホーム1ユニット増設の指定を受けるなど、市との連携は密に行っている。運営推進会議議事録、第三者評価結果も市に提出するなど積極的に伝える機会を作っている。利用者の困難事例に付いても市と協議を行った実績もある。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>退所された方も含め、開設以来のご利用者には近い方々がおられ、権利擁護事業・成年後見制を必要とされる方がいなかった為もあり、これまで学ぶ機会も持っていない。グループホームでは必要となり得る知識であり、必要時に備えたい。</p>	<p>現在、市社会福祉協議会に施設内研修への講師派遣を依頼している。「地域福祉権利擁護事業」「成年後見制度」の他に「高齢者虐待防止関連法」に付いても、定期的に開催している施設研修とし近日中に実施を予定している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>万一、ホーム従業者からの通報・利用者からの届出があった場合は事実確認を行い、確認された場合は、当事者に認識するよう指導し、就業規則等に基づき処分する場合もあり得る。18年4月施行の「高齢者虐待防止法」に関し、学ぶ機会を持っていないが、虐待防止に関するホーム方針は明確にしている。</p>	<p>上記記述の通り研修会を実施する。身体的拘束の絶対禁止もホーム方針とし明確にしており、研修ではネグレクト・心理的虐待に付いても取り上げる予定。ホームではチームケアの重要性を常々より説いており虐待に付いても共通認識を徹底させたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>一時的に中断したが、「生活だより」を再開した。健康状態・生活振り行事も含め、また写真も添えて毎月郵送で報告する事になっている。金銭管理の報告は事務室が担当しており、預り金元帳・領収書(写)を月次に送付している。必要な緊急報告・相談等は、電話・訪問で行い、家族の意向に沿うよう努めている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居者の生活のリズム・暮らしの流れに対応する為、開設以来職員の勤務時間帯を数度変更し、様々な試みを話し合いながら行いました。現在の勤務ローテーションは最も利用者の生活に適したものになっていると思います。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>同一法人が運営する他施設及びホームに併設する他事業所への異動は基本的には行わない。今夏、新ユニットを増設した為、以前より勤務している職員の半数を新ユニットに配置せざるを得なかったが、3ヶ月をかけて職員採用を行い、ダメージを最小限に抑えるよう努めた。</p>		<p>職員の希望に基づく異動は実施した事はあるが、欠員補充等の事業所の都合による異動は行なったことは無い。また、自己都合による退職時の対応等は非常に難しいが、引継期間を充分に取れるよう工夫している。又、常々より職員配置には余裕を持っており、チームケアによる対応によってもカバーをしている。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を策定し体系的な研修を実施するとともに、資格手当を導入するなどし、資格取得も奨励している。研修は認知症研修を主とする外部研修、各種技能・知識の習得を計る施設内研修・職員勉強会よりなる。研修報告は資料とともに全員に回覧している。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣4市町で連絡協議会を結成している。管理者主体の情報交換会、職員対象の勉強会、外部講師を招く研修等、非常に活発に交流している。当ホームの職員も研修委員とし協議会の運営に参加しており、会場提供の機会も多い。また懇談会も開催され交流を深めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>健康状態なども含め、日頃より職員に声を掛けるよう努めている。管理者は概ね3月毎に職員の個人面接を行い、不満や悩みについて話せる機会も作っている。グループホームでは、一人夜勤や日々の休憩時間の過し方で非常にストレスを感じており、環境づくりに留意したい。</p>		<p>2ユニットになり一人夜勤の負担は僅かながら減少したと思っている。今後、職員専用の休憩場所の確保なども検討したい。また、年に数回の食事をを行うなど、懇親も図る必要を感じている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	契約職員も含め人事考課制度を取入れており、昇給・賞与には勤務実績・自己啓発が反映される。契約職員・一般職員は各担当毎に必要とされる項目を、役席者は個別目標を策定し、取り組んでいる。資格取得にも応じた手当が交付される。当ホームの考課制度は結果による考課ではなく、努力評価を重要視している。		
<p><b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	グループホームも入居までの待機が永くなり、その期間を有効に活用している。相談から、まず申込に至る間に、ホームに足を運んでいただき、雰囲気や環境を知っていただくなどを行う。また、申込から入居に至る間は、ご家族より個々の情報を提供していただき、入居が近づくと数回の事前面談でゆっくりと聴く機会をつくり、信頼関係を築くよう努めている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られたご家族には、入居に至る間及び入居後の不安希望等を納得いただけるまで説明している。申込を受け、入居直前になり詳しく説明をするような事はしていない。十分に理解をいただき申込を受け付けている。入居に至るまでの在宅での支援も含め、信頼を得られる対応に努めている。		
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談への対応とし、最終的にグループホーム入居となる場合もあるが、件数割合では各種サービスによる在宅支援、他施設入所への支援が多い。相談者にとり、現在及び将来にわたる不安解消が重要であるが、希望する生活や住環境なども考慮し、各方面の協力を得て支援している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談より利用に至る間は、既項目でコメントしているがサービス利用(入居)に際しては、環境変化に伴うストレス及び不安解消を図るべく、細心の注意を払っている。併設のデイサービスより利用開始、グループホームの日帰り利用、職員のヘルパー派遣など、実施している。入居を急がず、利用者本位の受入体制を取っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>		<p>ホームとしては左記の様に考えていますが、ご家族には遠慮があるのかなかなか真意を述べられない。面会に来られた際やカンファレンスの席上で、ホームの考えを伝えて行きたい。ホームよりいろいろ提案を行い、ご家族に決定していただく等の方法も検討したい。</p>
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		<p>馴染みの場所や馴染みの店を訪ねる支援は行っています。ご利用者・ご家族が希望されれば知人・友人を訪ねる支援も全面的に行います。また、ご家族とも協力し、馴染みの方々にご来園をお願いし、楽しく過ごしていただける雰囲気作りなど関係継続を図っていきます。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>過去に数例の取組を行いました。家族が無く長期入院となったご利用者の場合は、金銭管理・病院での食事介助も行いました。また在宅での生活に戻られたご利用者の場合は、併設のデイサービスを利用されましたが、デイの休日はホームの職員が買物や洗濯の家事・排泄介助なども手伝いました。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1.一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>言葉にならない思いを大切にしています。言葉で表わすことが出来ないご利用者には、表情や何気ない行動からも把握するように努めています。また、ご家族よりの情報や生活歴及びホームでの生活振りなどを参考に話し合い、本人の意思を汲み取るようにしています。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>相談を受付けた時から、不安・希望を聴く過程で様々な情報を得るように努めています。入居前の面接でアセスメント表を出して、聴取する様な情報収集は画一的な情報に限定されてしまいます。入居後もご利用者・ご家族との関わりの中で新たに把握した事は、全員が共有しています。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>職員は個々に利用者の1日の過ごし方や、心身状態については業務の中で把握できていると思うが、できる力やわかる力について、チームとして総合的に把握し、利用者の日々の暮らしの中で活用できているとは言い難い。</p>		<p>職員個々が情報を共有し、チームとし一貫した支援ができるよう記録方法・カンファレンスの進め方を改善する必要があると感じている。全員が知ろうとする意識を持ち、日々の介護の中で目を養い、ご利用者のできる力・わかる力を見落とさず、日常生活で発揮する機会を作るように努めます。</p>
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成時には、必要な場合は関係者と話し合い意見を求めています。病院より退院される場合などは、ソーシャルワーカー・看護師・担当医、また在宅よりホームに入居された場合は、在宅時のケアマネジャーより意見・アイデアを提供されています。また本人・家族が希望する人があればその方にも意見を求めるようにします。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現在は3ヶ月に一回（必要があれば随時）見直しを行っていますが、新ユニット開設準備期間中は、見直し時期が遅れました。毎月見直し、新たな介護計画を作成することはしませんが、日々のミーティング、月次の職員会議で検討し、利用者の変化に即時対応をしています。職員に周知するため、変更・対応内容は個人ファイルに綴っています。</p>	<p>一般的な見直しは3ヶ月毎にしますが、きめ細やかケアを行うため、必要であれば臨機応変に見直しを行います。臨機の対応の際に職員の意思が優先されないようご家族とも密に情報交換が必要と考えます。また、日々のミーティング・月次の職員会議での検討も続けて行きます</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>健康状態や生活の基本となる食事・排泄等の記録は数値や記号で明確に記録できているが、せっかく良い気付きや工夫をしているのに、ほとんど記録されていない。職員の記録の重要性に関する認識が低く、研修・指導が不十分であったと反省しています。</p>	<p>職員が記録の重要性や記録方法などに関する知識を習得できるよう、図書の配布、研修への参加、勉強会の開催を早急に行います。また、業務の流れや書式も再検討し、記録に関して環境も整えます。</p>
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>介護保険制度に基づくものとして、認知症対応型通所介護を旧ユニットで実施したい。利用者・家族への支援としては、一時帰宅・外泊時の送迎や職員による安否確認の実施。家族に代わって同行する墓参や家族入院時のお見舞い同行を行った。また、親族よりの依頼で資産管理を行ったこともあります。</p>	
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ホームの運営には、民生委員・ボランティア・各種公的機関・学校・保育園等の協力を得ているが、利用者・家族の意向で協力を得て暮らしの支援をした事例は少ない。独居利用者の入居時の民生委員による紹介・利用者の緊急時の消防救急隊による搬送、利用者の自宅自治会よりの面会が数回ありました。</p>	<p>利用者・家族の意向や必要性が認められれば、ホームより各々の地域資源の団体・機関に依頼して、協働し支援をします。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>市町村単独事業とし、ほとんどの利用者が高齢者健康診断・インフルエンザの予防接種を利用しており、一部の市町村では福祉用具の購入補助や現物貸与を受けています。介護保険のサービスとしては、併設するデイサービスを利用して、行事や外出の際、利用した実績があります。</p>	



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>利用者に対する地域包括支援センターとの協働による支援は現在まで必要となる事例がありませんでした。地域包括支援センターとは運営推進会議への委員派遣で協力を得るなど、連携体制を整えています。利用者で入居までセンターのケアマネジャーがプラン作成を担当していた方もおられ、必要時には協働できます。</p>		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム入居後の診療を受ける医師については、本人・家族の希望により個々に異なる。ホームには協力医療機関（総合病院）の他にホーム主治医契約を締結している医師（開業医）があり、入居後もこれまでのかかりつけ医に受診する方、ホーム主治医にかかる方と様々である。必要な場合は専門医への紹介・受信も行い、支援体制は整っています。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>ホーム主治医は「在宅療養支援診療所」の届出を行っている医師で、認知症及び高齢者の疾患に関しては専門性が高い。また、近隣の神経内科に受診する方、先端予防医療の専門医をかかりつけ医とする方など、個別支援による専門医の指示や助言を得る相談体制は出来ている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>非常勤ではあるが、看護職員を配置している。訪問看護ステーションとも定期的な訪問による利用者の健康管理に関する契約を締結しており、ホーム主治医よりの訪問看護派遣も可能である。三者ともに24時間のオンコール体制であり、日常の健康管理や緊急時の相談・必要であれば夜間対応も行える。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院の長期化に伴う認知症の進行・ADLの低下が懸念される為、担当Dr・NSと積極的な情報交換を行い、早期退院に向け連携しています。入院中も職員は、定期的に面会し、状態把握に努めており、退院に向けての働きかけを積極的に行っています。また退院カンファレンスも職員数名が参加し、受入体制等を整えています。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の相談に来られた際にも、グループホームの重度化及び終末期の説明をしています。入居時には具体的な話し合いを行い、同意書をいただいています。ホーム主治医・ホーム職員は「家族の希望に沿う」ホームの方針を理解しており、重度化に伴い家族の希望が変化する場合も継続的な支援を行います。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化・終末期の支援については、家族との話し合いの機会を持ち、介護に対する意向を確認するとともに、医療に関する説明は職員も同席し、ホーム主治医より行っています。確認・説明の中で「できること・できないこと」を明確にし支援方法を決定しています。職員には知識・技術的な事項も含め、必要な研修・ミーティングを行います。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームより退所された事例は、経済的理由で退所された方と長期入院で退所されたお2人です。在宅復帰の方は併設する居宅・デイサービスとも連携し、支援を続けました。他施設入所の際にはホーム職員も面接に立会い、情報提供も行いました。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者個々に適した言葉かけ、呼び方に注意を払っています。親しみをもち接するようにしていますが、年長者とし尊敬しプライドを大切に、また、あからさまな介護で自尊心を傷つけることのないよう配慮しています。個人情報の記録に関しては「個人情報管理規程」に基づいて取り扱っています。</p>		<p>プライバシーの確保については、日頃より職員にも注意を払うよう指導していますが、一部事項に徹底が不十分と感じています。共同生活の中で守り通す事は非常に難しく、不十分と感じる個々のケースや場面を職員全員で検討して行きます。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>嗜好品の購入や外出・買物など、言葉だけに頼らず、その方に適したコミュニケーションの方法で自己決定の場面を作って行くよう工夫しています。また、日頃の生活の中でも意思・希望の表出が行えるような利用者個々に合わせた接し方に注意しています。</p>		<p>ユニット増設後に入職した経験の少ない職員もあり、利用者の状態把握が不十分で、利用者の思いや希望に沿った支援が出来ていない場合もあります。カンファレンスや事例検討研修を行い、職員能力強化を図ります。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>理念に「その方らしく暮していただく」と謳っています。日々の日課などはなく、自宅で過ごされていた生活に近づけるよう努めています。職員が決めることはなく、利用者の意思に沿い個々のリズムで暮していただくよう支援します。グループホームは共同生活ではなく、9人の共生の場です。</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみを整えることには配慮していますが、おしゃれを暮らしの中に取り入れる事は出来ていません。利用者の認知症の進行・身体機能の低下に伴い、個性の尊重が出来なくなってきました。利用者個々の状態に合った身だしなみやおしゃれの支援を検討します。</p>		<p>髪の流れ、着衣の流れや汚れなど、整容に対する配慮はグループホームの支援の基本だと考えています。利用者の重度化に伴い、介護が主体となってきましたが、その方らしい服装や髪型など個性を尊重した生活をしていただけるよう職員の意識を改めていきます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の買物に同行していただく方もおられます。調理は難しくなりましたが、配膳や下膳・食器洗いなどは職員と一緒にしていただいています。台所がダイルーム・居室と隣り合っており、調理を眺めたり、話しに来られる方もおられます。食事を話題にし、コミュニケーションをとるよう努めています。</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品の制限はしていません。利用者の健康状態や他の利用者への影響には、十分に注意しています。特に喫煙は、苦情や安全面での懸念もあるので、利用者の状況に応じ支援しています。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>膝の拘縮が看られ、立位が不可能な利用者でもおむつは使用しているが、それだけに頼らずトイレ介助も行っています。重度化し、排泄に介助の必要な方が増えて来られましたが、下着・パット類は状態に合わせて使い分け、利用者の希望を尊重しています。また、排泄パターンを把握した支援に取り組んでいます。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		<p>生活のリズムが狂いがちな利用者がおられ、特に睡眠時間が不規則となっています。また、休息を意識するあまり不活発な暮らしにならない配慮も必要です。十分な観察・声掛けを行い健康状態に注意しながら、利用者個々のリズムにあった安眠・休息の支援に取組めます。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>日々の生活を少しでも楽しく活気あるように、また時には気晴らしの外出・行事を工夫して行っていますが、利用者個々の役割や生活の張り合いに関しては機能低下・重度化に伴い、ますます難しくなってきました。重度利用者の方々にも喜んでいただけるよう支援を考えていきたい。</p>
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>毎年、春と秋には少し遠方へ日帰り旅行を行っています。体力面で無理な方には近くのご希望される所へお連れしています。毎年一度、ご家族の希望で遠方に帰宅される際に送迎支援の方、帰宅は出来なくとも近くまでお連れをすることもありました。ホームでの外出行事の他、ご家族にも外出支援をお願いしています。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者からご家族に手紙を書くことは難しくなってきましたが、遠方のご家族が定期的に送って下さり、職員が読んでお聞かせしています。ご家族よりの電話も時々あり、お取次ぎをしています。ご希望があれば、電話を掛けるお手伝いをしたり、ご家族に電話をお願いしたりしています。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間を設けず、自由に出入りが可能にしています。会社帰りに面会に来られ、遅くまで過ぎるご家族もいます。湯茶の用意はもちろんのこと、時間帯によればお食事も一緒にいただきます。宿泊も歓迎しており、寝具も用意します。来訪者の少ない利用者の対応も検討しています。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる</p>	<p>物理的にも精神的にも「拘束を行わない」をホームの絶対方針とし、職員にもその旨を徹底しています。家族にも方針を説明し、ホームのリスク管理には理解を得ています。職員には、会議の場や職員面接の際に拘束に対する意識を高めるよう指導を行っています。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>防犯・危険防止の為以外の施錠を行った事はありません。日中は外出も自由です。止めることはせず、職員が同行します。居室は職員が立入れないよう、内部から施錠できます。エレベーターは夜間は止めますが、階段で1Fに降りる事も可能です。居室よりベランダへの出入りも全く自由です。拘束と同様に職員に徹底しています。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認  利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の行動は制限せず、日中は自然な声掛けや、利用者個人の用件でさりげなく訪室するような気配りをしています。階下に降りて外出される場合は、事務室の横を通る為、職員が気付きます。夜間は睡眠の妨げにならないように定時の訪室をしていますが、不眠がちな方や施設の際は無理強いしません。		
68 注意の必要な物品の保管・管理  注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リスク管理の為、物品管理基準を作り必要な物品については管理方法や管理場所も統一しています。全ての物品を格納するのではなく、生活に配慮した取扱いになっています。居室の物品については、利用者・家族の希望を尊重しています。共用部で要注意の物品は員数も確認しています。		
69 事故防止のための取り組み  転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止や火災予防は各々のマニュアルに定めています。どうしても発生後の事故対応や消火・避難対応が主体となってしまう、十分な取組が出来ていない。マニュアルの他に職員個々の危険予知能力を強化する必要を感じています。		事故防止の為のホーム内の環境整備や業務の見直しを行い、安全性を高める工夫が必要と感じています。ヒヤリ・ハットに積極的に取り組んでおり、職員の意識も高まっていますが、一層積極的に取り組もうと思っています。
70 急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防本部の救急隊員を講師に招き、毎年定期的に応急手当・心肺蘇生の研修を全職員対象に実施しています。また、職員勉強会でもテーマとし取り上げました。本年度はAEDを導入し、小型O <sub>2</sub> ボンベ、アンビューも設置しました。職員には人工呼吸用の携帯マスクも配布しています。		定期的に研修会を実施し、各種機材も整えていますが、職員の知識・技術はまだ不十分と判断します。詰所には「日赤版・緊急処置法」も備付けていますが、今後も研修会を継続的に実施し、職員の一層の能力向上に努めます。
71 災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災には消防計画・対応マニュアル・消防訓練の実施等と、対策を実施できていますが、地震・水害等の天災への備えは非常食の備蓄程度に止まっています。火災時の消防隊の支援は可能ですが、立地条件もあり近隣の支援は手薄となっています。		近隣には民家が非常に少なく、建物は公道より離れて建っている為、特に夜間の火災発生時の地域の協力体制を懸念しています。今後は、その他災害も含め、消防本部・地域の各種団体と協議を進め、協力体制の強化に努めます。


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>リスクを主に話をする事は無く、面会に来られた際や電話連絡の話の中で生活振り等を説明しながら、リスクについても自然な話題として取り上げています。リスク回避のために話し合うのではなく、利用者のもっている力を尊重した暮らしを支援する為には、家族の理解が必要です。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>元気がない、食事が少ない、便が出ていない、血圧がいつもと違うなどの体調変化のシグナルには、常に注意を払っています。看護職員・ケアマネとも相談し、様子観察・受診等の適切な対応を検討し、家族にも連絡を行います。受診後の医師の指示等は、全職員に伝えます。</p>	<p>利用者の重度化が進行しており、日常の様子にも変化が見られます。職員には観察力を高め、適切な判断が行えるよう、一層の研修参加・資料配布等も必要と感じています。情報共有に関しても、資料化を検討していきます。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効能・用法・用量・副作用は、処方時に手渡される薬情報をファイルに綴り、職員がいつでも見ることが出来るようにしています。服薬準備は夜勤者が行い、服薬時は2名体制で確認し、誤薬防止に努めています。体調変化が著しい場合は、主治医に報告し指示を仰ぎます。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>半数の利用者が便秘薬を服用していますが、服薬のみでコントロールしていません。便秘がちな方には、水分摂取を促したり、散歩などの軽運動を勧めています。食事面では繊維質が多くても食べやすい食品を工夫して用いたり、必要な方には腹部マッサージもしています。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>生活習慣として一人で出来る方には、声掛けのみ行い見守っていますが、介助が必要な方は、一人ひとりの状態に合わせてケアプランに取り入れて、口腔ケアを行っています。胃ろうの方も、清潔保持のための口腔ケアをしています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の広さを有効に活用し、和室・ダイニング・喫煙所なども目線を感じられないよう工夫しています。ホーム内には、一人・グループで過せる空間を多く設けており、要所ごとに机や椅子を置くなどし、利用者も日常的によく利用されています。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはできるだけ新しく購入するのではなく、今まで使っていたものを持ち込んでいただくようお願いしています。仏壇や亡夫の位牌を居室に置かれる方も居られます。居室の使用に制限は設けていません。買い替えが必要な際にも利用者の好みに合ったものを選んでいただきます。		
84	換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のおよみがないうような換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	猛暑や厳寒の季節は無理ですが、朝夕は窓を開けて換気をしており、天候や時間帯によっては換気扇で補っています。空調は職員の体感ではなく、利用者の感覚に合わせるよう配慮しており、外気を感じられる温度です。共用部は職員が管理をしますが、居室は利用者の体感で好みの設定になっています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は畳敷となっており、安全性を高めています。畳でベッドの生活を皆さん送っておられます。畳の上を車椅子・シルバーカーで移動され、置くことも少なく転倒の危険は低いようです。食堂・ダイニング・台所の間には壁を作らず、利用者が声を掛けやすくしています。ナースコールのコードを5mにしている居室もあります。		
86	わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入口には利用者の写真を貼ったり、飾りつけをして間違わないよう工夫しています。トイレも解かり易く表示をしています。居室から出ると、台所・食堂・ダイニングを見渡せ、環境としては整備されています。また、備品の移動等は、極力行わず利用者の慣れ親しんだ雰囲気を守っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
87 建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干場があり、利用者も良く出入りしています。また、各所にプランターを置き、夏場はミニ野菜も作っています。前庭は一面芝生で散歩や気分転換には絶好の空間です。周囲は交通量も少なく利用者が一人で散歩されても危険はほとんどありません。		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該当する箇所を 印で囲むこと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームの周囲には広々とした田園地帯が拡がり、遠景に山々が見渡せ、春の桜・秋の実りと四季を感じられる豊かな環境の中で、落ち着いた暮らしが営まれています。ホームの中では静かにゆっくりと時間が流れ、ご利用者の皆様は日々穏やかに過ごされています。「歩いて来られた人生を大切に、輝き続ける生活を応援します。」を運営理念に、これからもその方らしくご生活いただけるよう、支えていければと願っています。